

草の根交流海外派遣団レポート

協会設立10周年を記念して、草の根交流海外派遣事業を実施しております。第1陣として、米国グアム準州に6月28日から7月1日まで19人の市民代表団を派遣しました。メンバーの皆さんによる体験報告から、上田典子さんのレポートを紹介します。

なお、第2陣の韓国務安郡派遣団との合同による市民報告会は、来る2月10日開催の第6回アジア太平洋フェスティバルで予定しております。市民の皆様、ご期待ください。

チャモロのカルチャーを持ち帰ろう

鹿田在住 上田 典子

私にとって、初めてのグアム。「持ち帰ろう」をキーワードに、グアムの人たちと心の交流の第一歩を身近な歌と料理から取り組んでみました。

『歌で交流』では、チャモロ語の歌と一緒に歌おう!と、グアム賛歌“Fanohgi Chamoro”と、チャモロダンスでよく歌う“O'Asaina”を準備!グアムミュージアムの壁面にあった“Fanohgi Chamoro”をグアム準州副知事との交流会、現地の方々とのBBQ交流会で、皆さんと歌いました。この曲は、公式行事等で歌われることが多く、チャモロ文化を子ども達に継承する為、学校教育の中で歌われていて、現役の学生たちが良く知っていました。副知事さんもサビの部分でハモってくださり、レストランスタッフやお客様から拍手を頂きました。“O'Asaina”はBBQ交流会に同席の学生達が知つていて一緒に口ずさんでくれました。この他、日本の曲“ふるさと”を皆さんと歌いました。BBQ交流会では、お礼にとグアムの学生の1人がウクレレの弾き語りをしてくれました。歌の交流を通して、文化を理解したい、繋がっていきたいという気持ちを伝えることができたのではと思います。また、ガイドの方がご友人のチャモロシンガー“ジョニー・サブラン氏”的CDを探して下さり、音楽を通じてグアムの人たちとの心の交流を少し持

ち帰ることができました。

次に、《料理で交流》では、楽しい料理教室でチャモロ料理を習いました。

- ・ココナツ削り(2つに割ったココナツの内側の白い部分を専用の削り台で削り取る。非常に楽しい作業)
- ・チキンケラグエン(ローストチキンと削ったココナツをたっぷり使った料理。トルティーヤで包みフィナデニソースで)
- ・フィナデニソース(ビネガーや醤油を使って)
- ・レッドライス(アショーテの赤い汁を使い炊飯器で炊く。お祝い事によく作る)

日本で入手しにくい食材や調味料もあり、ご指導くださったシェフに日本でも作れるよう、レシピとアドバイスを頂きました。



現地の方のアドバイスや交流を通して、持ち帰ったチャモロ文化は、音楽やダンスに繋がるものと、料理です。調味料に醤油がよく使われていることに驚きつつ、日本人の味覚に合う優しい味の料理の数々!帰国して、早速チキンケラグエンとフィナデニソースを作りました。現地で体験した“味”を1つでも多く再現し、私たちの北名古屋で紹介していただいたらと思います。

**偶然と出会いから始まった
世界は格差問題に喘いでいます。南インドやタイのスラムでの体験から小さな国際貢献は始まりました。**

8月19日、北名古屋市コミュニティセンターホールにおいて、井手初穂氏(小児専門医)をお迎えして、講演会を開催しました。以下は、その概要です。

ここには、バンドウエシ・カルプラスの井手初穂です。本職は、小児科専門医です。

小児科医として診察しながら、偶然と出会いにより、2010年から新しく始めた仕事がアジアの手芸品フェアトレードです。アジアには日本では想像できないようなひどい差別や貧困があって、そ



ア研修保健所を設立した川原啓美です。父は、外科医でした。ネパールに医療協力に出かけたことがきっかけでアジア保健研修所を設立しました。

私の父は日進市にあるアジア保健研修所を設立しま

す。父を助けてくれた素

が売れない」と聞いて、私は

持つて帰つて販売する協力を

しようと決心しました。

印度のデーナバンドゥ

は、外科医でし

た。

印度のデーナバンドゥの娘にタイに寄りました。タイには父を助けてくれた素晴らしい日本人のご夫婦がいて、その奥様が今、私の協力者になっています。彼女は

バングラデシュの手芸品の素晴らしさに心を打たれて、バンコクや日本で手芸品を販売してその人達の収入を助ける活動をしています。彼女が私を助けてくれると、彼女が私が助けてくれると、

ここで作られたものは買いたたかれ、うまく売ることが出来ません。そのような販売ルートを持たない高度な技術で作られたものを現地に行って仕入れ、日本で販売する活動を行っています。

最近、日本製と書かれて

いるのに非常に安い洋服を

見かけます。それは、からく

りがあります。研修生といっ

て、日本で縫っているので

あります。

アジア各国のお針子さんた

ちが、日本で縫っているので

あります。

ですから、その製品は日

本製になるのです。もちろん、ちゃんとした技術を伝え

る本来の意味での研修生を

迎えている企業がほとんど

だと思いますが、なかには、

その人達には安い給料しか

払わなくておらず、場合によ

う実態があります。日本人

が縫製していたらこれほど

心を打たれ、ヒンズ

ー教のカースト制度

に入れない差別をされ

ている人「ダリッド」に教育



ガングーに会い話をし

て

人口は約800万人)と言

われていて、

度二人に会いたい、テナバ

ンドウ村という開拓村にも

一度行きたいと言いまし

た。デーナバンドウ村はパラ

ダイスでした。清潔で、ち

んと整備されていて、こんな

綺麗なところはありません。

デーナは「貧しい人」、バン

ドウは「友達」。ここをつく

たのは、ジョセフ・ジョンさん

というインド人の牧師です。

北名古屋市国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
Kitanagoya City International Association (KIIA)
〒481-8531 北名古屋市役所(西庁舎4階)
TEL 0568-22-1111(内線)2400

vol. 29

2017. 11.

**偶然と出会いから始まった
世界は格差問題に喘いでいます。南インドやタイのスラムでの体験から小さな国際貢献は始まりました。**

や仕事を与えたりする仕事をしようと決心し作られたのが、デーナバンドゥという開拓村です。そこである女性が野外教会にゴザをひいて、チ刺繡をしていました。とてもきれいなクロスステッチで、彼女はダリッドなので、市場では正當な価格で売ることができます。ダリッドは別名アンタッチャブル(触ってはいけない人・身分の低い人)と言います。品物が売れない」と聞いて、私は

